

平成31年度全国学力・学習状況調査

結果分析の概要

寒川町教育委員会

令和元年12月

目次

はじめに	寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～	・・・ 2
1. 子どもたちを支える環境づくり		
～学校と保護者との協力～		
	◇基礎基本的な生活習慣について	・・・ 5
	◇教師と子どもの信頼関係について	・・・ 9
	◇家庭での会話によって育まれること	・・・ 11
2. 資質・能力を育むための授業づくり		
	～「主体的・対話的で深い学び」の授業改善～	・・・ 13
	◇資質・能力を育むために	
	・ 調査結果 国語	
	・ 調査結果 算数・数学	
	・ 調査結果 英語	
	◇「考え」を発信する場や機会をもつために	・・・ 23
3. 今後に向けて		
	～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～	
	◇家庭で育まれていること、これからも育てほしいこと	・・・ 32
	◇学校で育まれていること、これからも育ていくこと	
	◇授業改善を通して育まれていること、これからも育ていくこと	

寒川町教育委員会の姿勢 ～変わらずに大切なこと～

全国学力・学習状況調査は平成 25 年度から、全国全ての小学校、中学校を対象に調査が行われてきました。平成 31 年度の調査の目的は次の通りです。

【調査の目的】¹

- 学力や学習状況を把握して、分析すること
- 教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図ること
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること*
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。

これとともに、変わらないこととしては、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】²

- 本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であること
- 序列化につながらない取組が必要であること

この部分について、平成 31 年度の全国学力・学習状況調査に関する実施要領でも、

【調査結果の取り扱いに関する配慮事項】³

- 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること
- 学校における教育活動の一側面であること
- 序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること

この調査で分かることは学力の特定の一部であること、この調査結果を受けて、序列化や過度の競争が生まれぬよう配慮することが求められています。

○ 「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」については、以後「実施要領」とする。

1【調査の目的】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（平成31年度 実施要領より）

2【調査結果の取扱いに関する配慮事項】 調査結果の公表にあたっては、本調査の目的や、調査結果が学力の特定の一部であることなどを明示するとともに、序列化につながらない取組が必要。（平成 25 年度 実施要領より）

寒川町教育委員会では平成 31 年度についてもこのことをしっかりと受け止め、全国学力・学習状況調査を次のように取り扱い、寒川町の教育のより一層の発展を目指していきます。

【寒川町教育委員会として】^{3・4}

- 序列化や過度な競争が生じないように配慮します。
(調査結果については、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行いません。)
- 学力の特定の一部、教育活動の一側面であることに十分に留意します。
(他の市町村や過去の結果との数値のみの比較に終わらず、平均正答数や平均正答率の現状についてしっかりと受け止めていきます。)
- 調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表します。
- 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策を示していきます。
- 調査結果の分析内容や改善方法については、寒川町ホームページに掲載するだけでなく、家庭版学校教育だより等で家庭への発信をし、家庭とともに学習について考えていきます。

また、次のことを踏まえて分析をしていきます。

【分析をする上での留意点】

- 学校での教育実践と調査結果との関わりについて検証していきます。
- 「これまでに取り組んで『強み』になったこと」を成果としています。
- 「これまでも取り組んできて、これからも取り組んでいきたいこと・より重点的に今後取り組みたいこと」を課題とします。
- 寒川町の児童・生徒やその保護者の取り組み、また、教職員の教育実践の方向性について、新学習指導要領やこれから求められる力と関連付けていきます。

3 【調査結果の取扱いに関する配慮事項】「調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」「調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。」(平成 31 年度実施要領より)

4 【調査結果の活用】(ア) 各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。(ウ) 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。(平成 31 年度実施要領より)

～学びの主役は子ども～

来年度から全面実施される新学習指導要領では、「知識伝達型授業から、アクティブ・ラーニング型授業への転換⁵が図られ、教員が「何を教えるか」から児童・生徒を主語にした「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に視点が変わります。つまり、児童・生徒が学びの主役となり学習を進めることが求められています。

児童・生徒たちが主体的な学びを追究していくためには、子ども自身が課題を見だし、見通しを持って授業に取り組めるような教師の工夫や努力が必要です。また、対話的な学びを深めるためには、自分の考えを友達に伝えたい・話したいと思わせる場の設定や、有意義な話し合いをするための教師の働きかけや、子どもたちが行っていることの価値づけが大事となってきます。さらに、深い学びを追究していくためには、教科特有の見方・考え方を働かせて、教科の本質に迫る授業を構想する必要があります。このような日々の授業の積み重ねによって、子どもたちに、「生きる力」⁶を育むことができます。

寒川町では、新学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の実現に向けて取り組んでいます。この取り組みの成果の一部は、児童質問紙調査や生徒質問紙調査の結果に表れています。

これまでの寒川町の取り組みでは、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、着実に積み上げられてきています。

全国学力・学習状況調査の結果を学力の一部として真摯に受け止め、学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために一緒になって取り組んでいきたいと考えております。

5【知識伝達型授業から、アクティブ・ラーニング型授業への転換】生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。（平成24年8月答申）

6【生きる力とは】今回の改訂においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきていることを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童・生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育んでいくことを重視している。（新学習指導要領解説総則編より）

1. 子どもたちを支える環境づくり

～学校と保護者との協力～

◇基礎基本的な生活習慣について

- ・基礎基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます
- ・計画的な学習によって、学びの定着が図られます

◇教師と子どもの信頼関係について

- ・児童・生徒と教師との信頼関係があることで、学びの質が高まります

◇家庭での会話によって育まれること

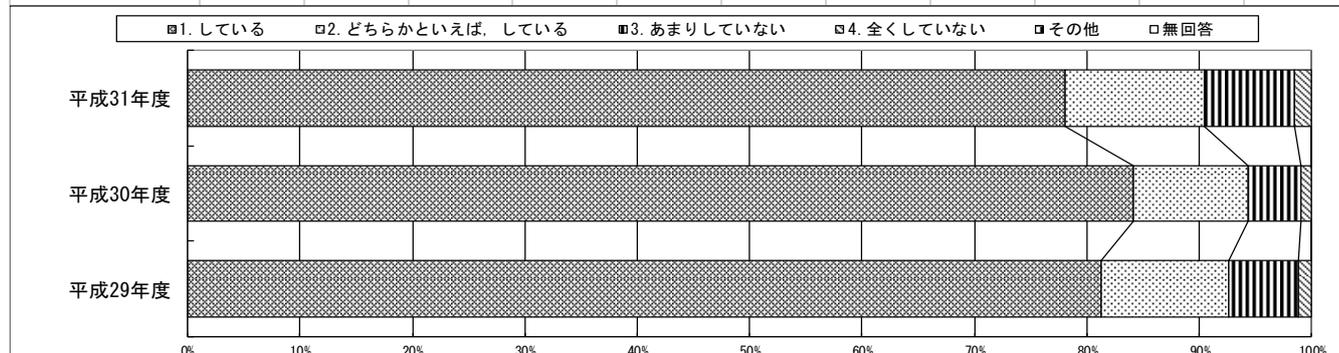
基礎・基本的な生活リズムの安定が学習意欲を高めます

子どもたちが健やかに成長していくためには、早寝・早起きを中心とした生活リズムを安定させることが大事です。生活リズムを安定させるためには、家庭の支えが大きく関わってきます。家庭での協力を得て、児童・生徒が規則正しい生活を送ることができ、学校での学習においても集中力を発揮し取り組むことができます。

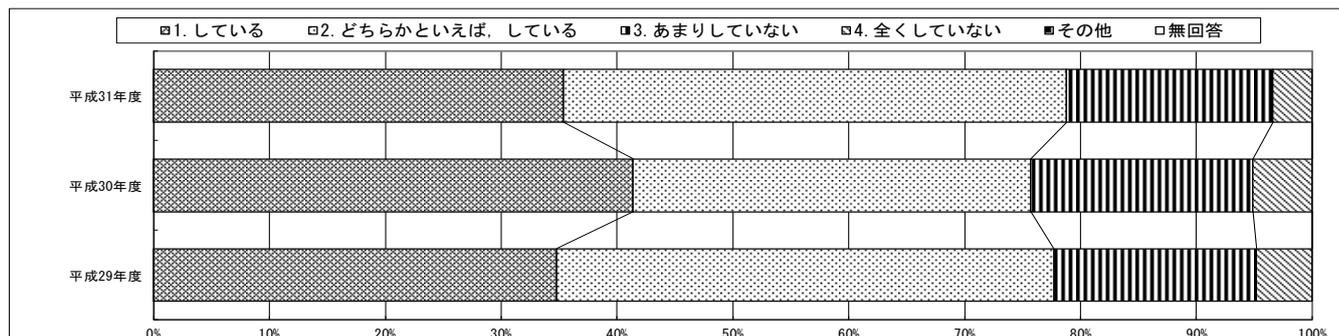
以下の児童・生徒質問紙調査では、児童・生徒の基本的な生活習慣についての項目です。【児童・生徒質問紙番号（1）「朝食を毎日食べていますか」】、【児童・生徒質問紙番号（2）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」】、【児童・生徒質問紙番号（3）「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」】については、多くの家庭の支えによって、児童・生徒が安定した生活習慣を送ることができていることがわかります。結果からわかるように、安定した生活を送ることが習慣化することによって、子どもたちは学校での授業においても、集中して取り組むことができます。家庭でのサポート体制が充実しているところが強みです。これからも、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に取り組んでいきましょう。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(1)	朝食を毎日食べていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	78.0	12.4	8.0	1.5			90.4		0.0	0.0
平成30年度	84.2	10.2	4.6	1.0			94.4		0.0	0.0
平成29年度	81.3	11.3	6.2	1.2			92.6		0.0	0.0

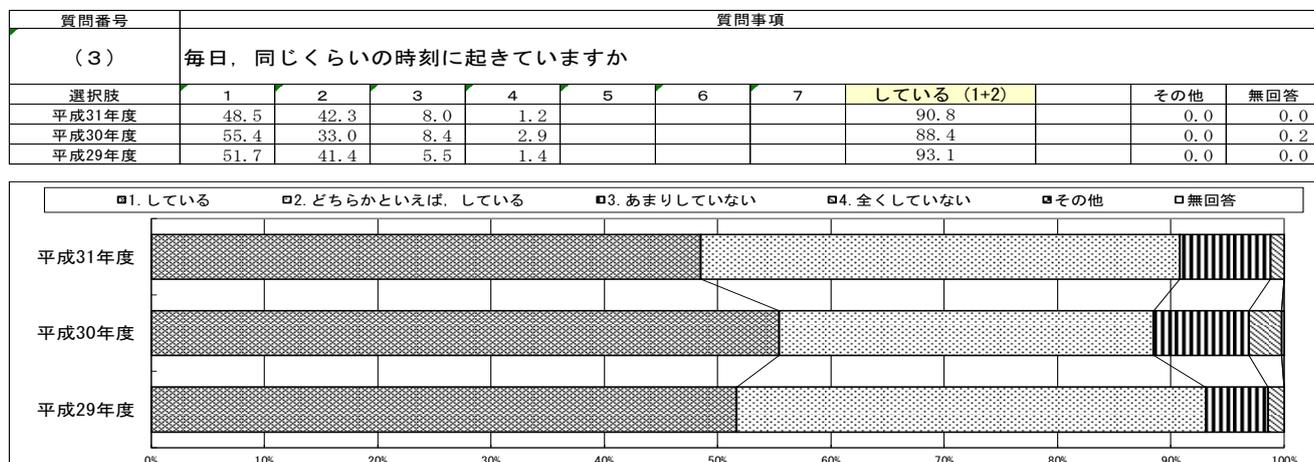
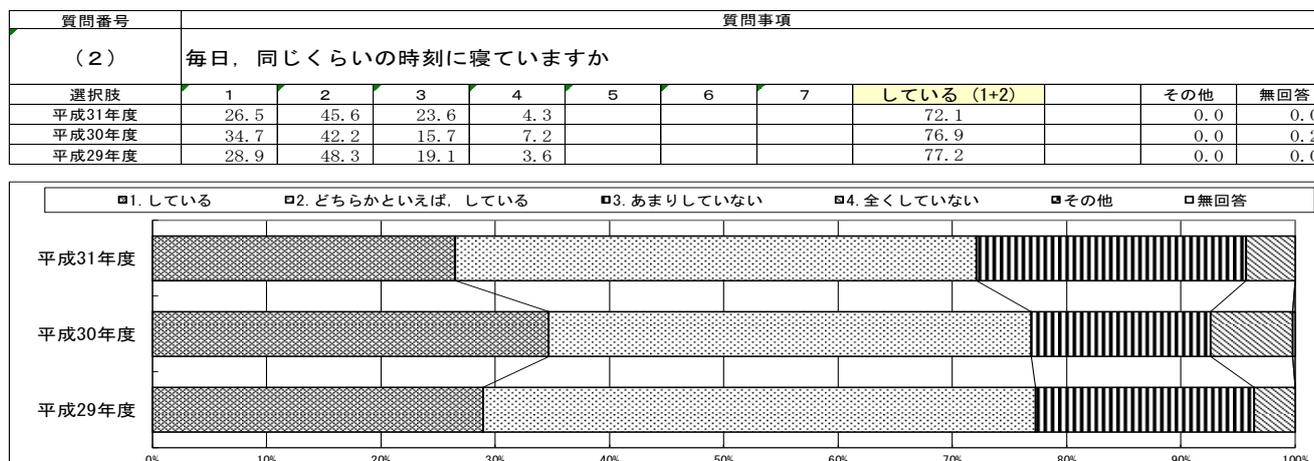


質問番号	質問事項									
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成31年度	35.4	43.4	17.8	3.4			78.8		0.0	0.0
平成30年度	41.4	34.3	19.2	5.1			75.7		0.0	0.0
平成29年度	34.8	42.9	17.5	4.8			77.7		0.0	0.0





【中学校生徒質問紙】



計画的な学習によって、学びの定着が図られます

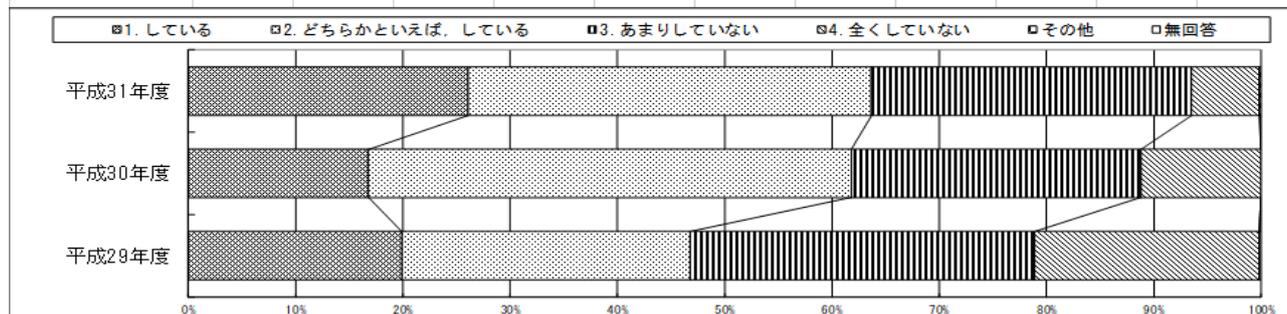
昨年度の調査結果においては、小学校・中学校ともに計画的に家庭学習をしている児童・生徒が多く、それに伴って、家庭学習の時間が増えていました。

今年度の小学校児童質問紙においても、計画的に学習に取り組む児童の姿が見られます。年を重ねるごとに割合が増加し、学習習慣が定着している様子が伝わってきます。また、家庭学習の時間も増えていることは、強みとなっています。一方、中学校生徒質問紙においては、昨年度より低い傾向が見られています。

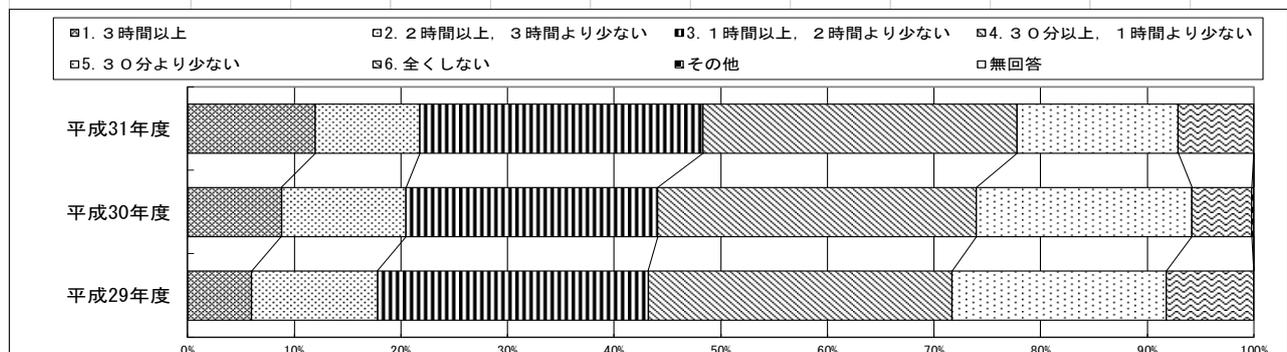
家庭において計画的に学習することで、学校で学んだことを、確実に習得することができます。日々の積み重ねの上に学習の定着が図られます。家庭で学習に取り組む習慣を身に付けることによって、学習習慣だけでなく、学習したことを身に付けることができます。学校から帰宅した後の時間の過ごし方について、今一度考える機会を家庭で持って下さい。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	している (1+2)		その他	無回答
平成31年度	26.1	37.6	29.8	6.3			63.7		0.2	0.0
平成30年度	16.8	45.0	27.0	11.2			61.8		0.0	0.0
平成29年度	19.9	26.9	32.1	20.9			46.8		0.0	0.2

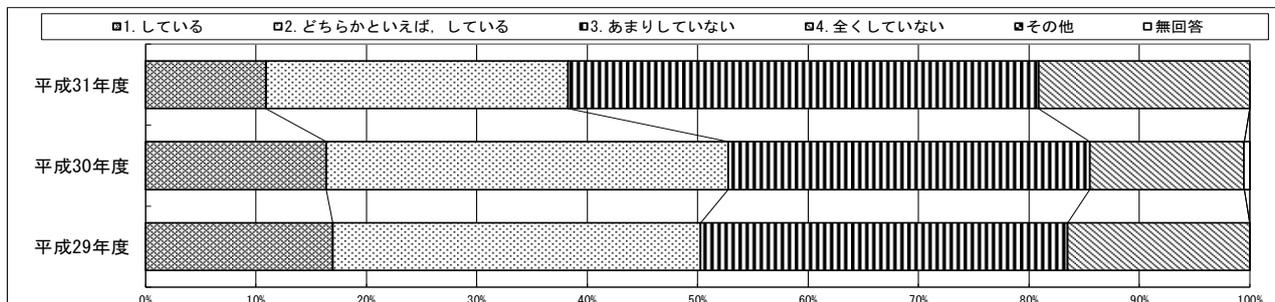


質問番号	質問事項									
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	2H以上	1H以上	その他	無回答
平成31年度	12.0	9.8	26.6	29.5	15.1	7.1	21.8	48.4	0.0	0.0
平成30年度	8.8	11.7	23.6	29.9	20.2	5.6	20.5	44.1	0.2	0.0
平成29年度	6.0	11.8	25.4	28.5	20.1	8.2	17.8	43.2	0.0	0.0

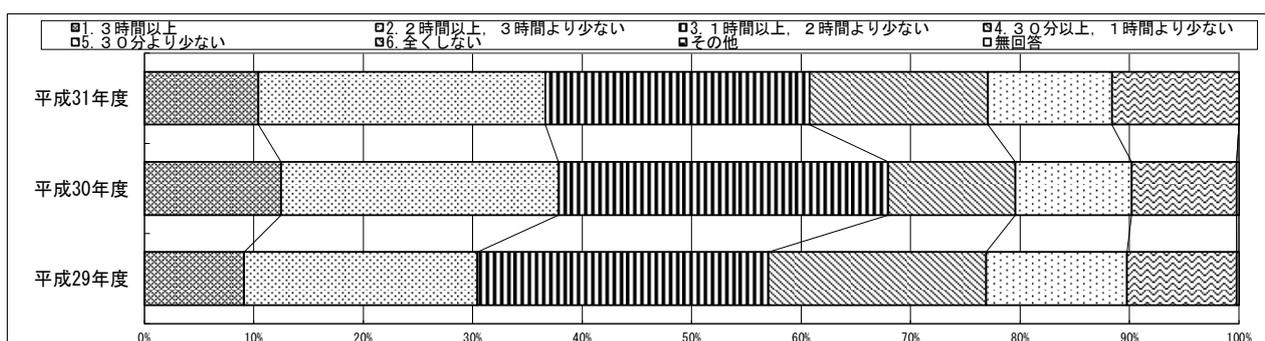


【中学校生徒質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)		その他	無回答
平成31年度	10.9	27.4	42.6	19.1				38.3		0.0	0.0
平成30年度	16.4	36.4	32.8	14.0				52.8		0.0	0.5
平成29年度	17.0	33.3	33.3	16.5				50.3		0.0	0.0



質問番号	質問事項											
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わってる時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	2H以上	1H以上	その他	無回答
平成31年度	10.4	26.2	24.1	16.3	11.3	11.6			36.6	60.7	0.0	0.0
平成30年度	12.5	25.3	30.1	11.6	10.6	9.6			37.8	67.9	0.0	0.2
平成29年度	9.1	21.3	26.6	19.9	12.9	10.0			30.4	57.0	0.0	0.2

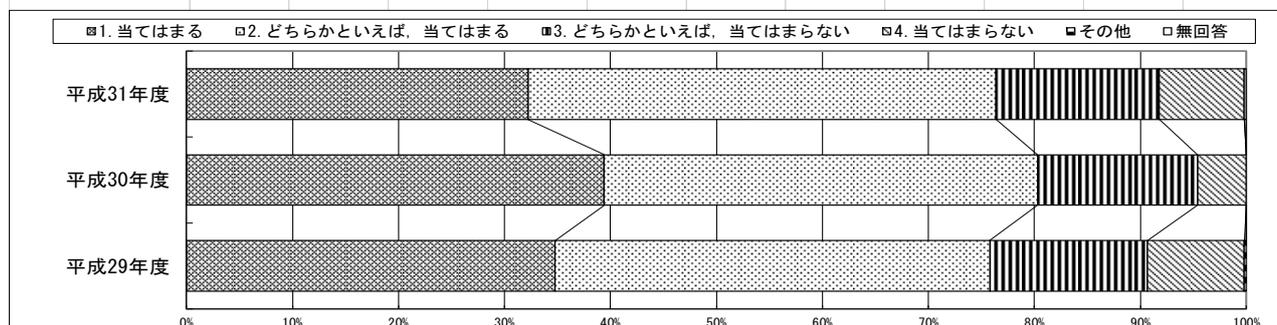


児童・生徒と教師との信頼関係があることで、学びの質が高まります

児童生徒が相互によさを認め合い、励まし合い、支え合う人間関係は、学級の基盤です。児童生徒が充実した学校生活を送るためには、「自分のことが好き」と思う気持ち（自尊感情）を育み、学級を構成する一員であるという所属感をもたせ、周りから認められているという充実感を味わわせるようにすることが必要です。さらに、学級を経営していく上で基本的に大切なことは、児童・生徒と教師の信頼関係です。以下の「自分には、よいところがあると思いますか」との質問紙調査では、多くの児童がよいところがあると感じています。また、「先生から、あなたのよいところを認められている」との質問紙調査においても同様です。この結果により、小学校においては、児童から教師への一定の信頼関係が見て取れるところが強みです。しかしながら、中学校では、昨年度と比べると、ともにポイント下がっていることがわかり課題として挙げられます。生徒の充実感が低くなっているため、信頼関係の構築とともに、日常の生徒の関わりの中で、教師が生徒のよさを認める教育がより重要となってくると考えられます。

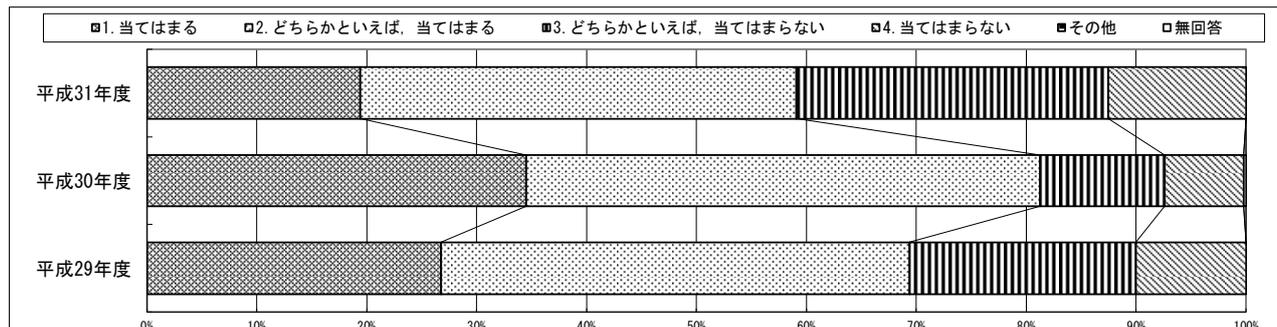
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(5)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	32.2	44.1	15.4	8.0			76.3		0.0	0.2
平成30年度	39.4	40.9	15.1	4.6			80.3		0.0	0.0
平成29年度	34.8	41.0	14.9	9.1			75.8		0.2	0.0



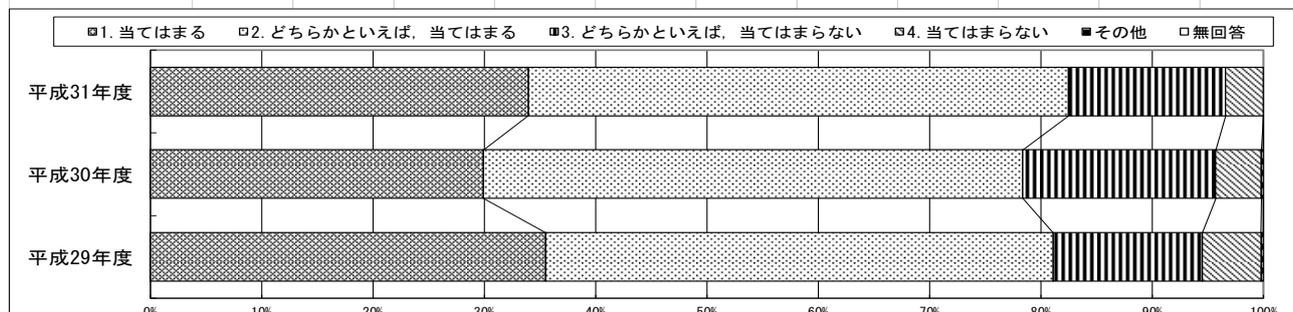
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(5)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	19.4	39.7	28.4	12.5				59.1	0.0	0.0
平成30年度	34.5	46.7	11.3	7.2				81.2	0.0	0.2
平成29年度	26.8	42.6	20.6	10.0				69.4	0.0	0.0



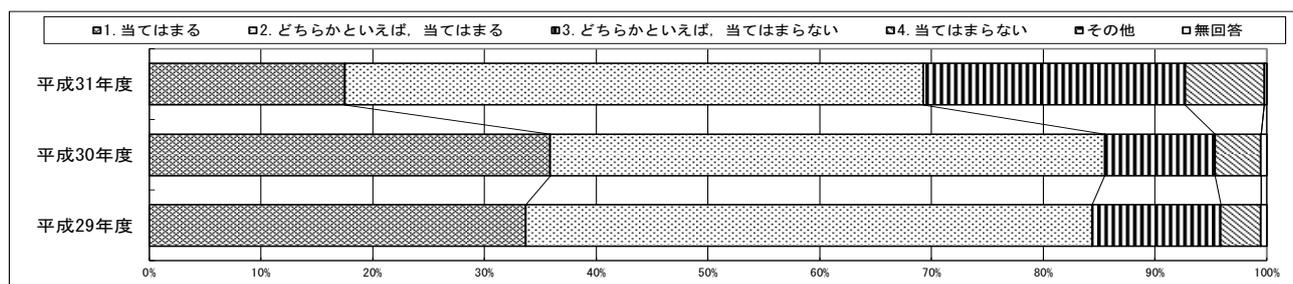
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	33.9	48.5	14.1	3.4			82.4		0.0	0.0
平成30年度	29.9	48.4	17.3	4.1			78.3		0.2	0.0
平成29年度	35.5	45.6	13.4	5.3			81.1		0.2	0.0



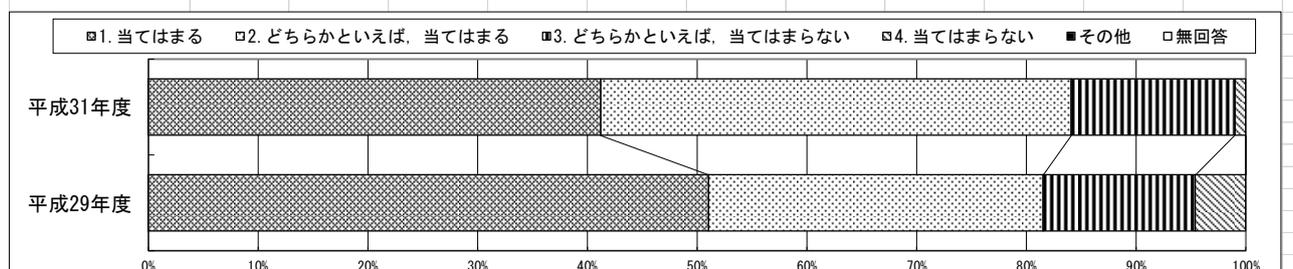
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	17.5	51.8	23.4	7.1				69.3	0.0	0.2
平成30年度	35.9	49.6	9.9	4.1				85.5	0.0	0.5
平成29年度	33.7	50.7	11.5	3.6				84.4	0.0	0.5



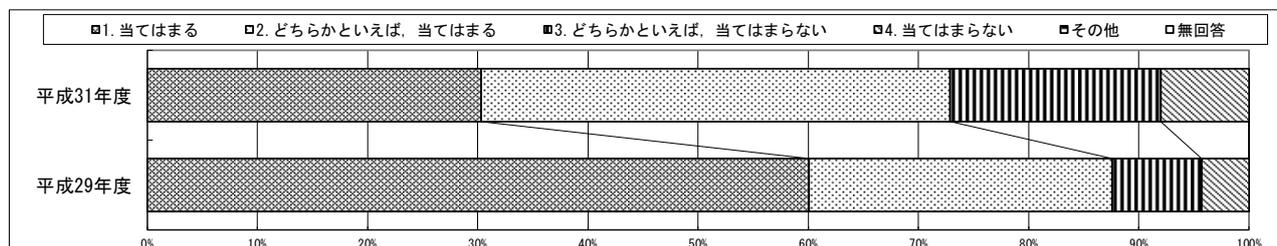
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(11)	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	41.2	42.9	14.9	1.0			84.1		0.0	0.0
平成29年度	51.1	30.5	13.9	4.6			81.6		0.0	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(11)	学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	30.3	42.6	19.1	8.0				72.9	0.0	0.0
平成29年度	60.0	27.5	8.1	4.3				87.5	0.0	0.0



また、上記項目の【児童・生徒質問紙(11)「学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか】では、多くの児童、生徒が所属する学級で、友達同士で協力したり、話し合ったりする活動を通す中で、うれしかった経験を持つことができていると回答しています。

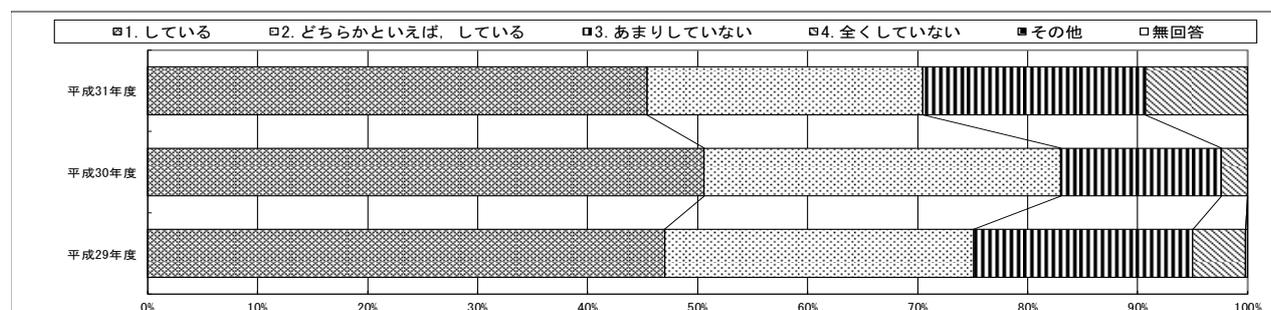
安全で安心できる、自分の居場所がある学級を子どもたちは望んでいます。そのような安心できる場であることで、子どもたちは、自分の考えを发表或し、友達と一緒に協力したりすることができます。加えて、特に小学校では、学級経営は授業づくりの基盤と言えます。安定した学級経営を続けることが、子どもたちへの学習指導をよりよいものへと導き学習意欲を湧き立てます。児童・生徒にとって、自分を表現できる学級づくりができていることは強みであると言えます。

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の実現が柱の一つとなっています。よい授業を行うためには、充実した学級経営を行うことが求められます。今後も、授業の基盤となる、学級づくりに丁寧に取り組むことはとても大切なことです。

家庭での会話によって育まれるもの

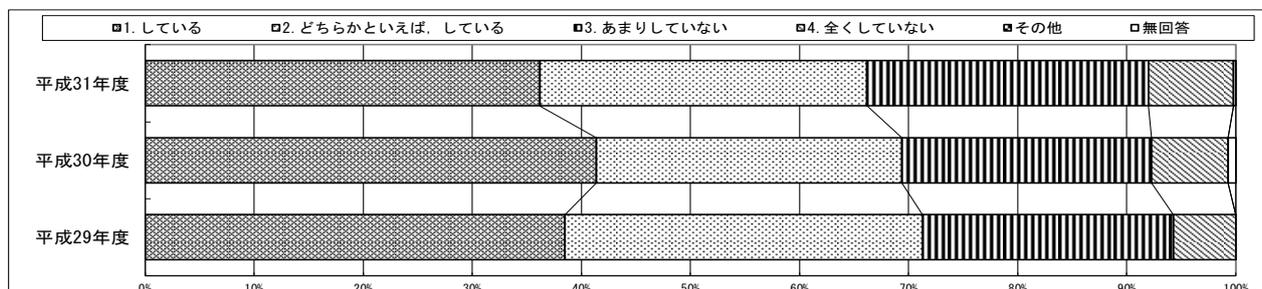
【小学校児童質問用紙】

質問番号	質問事項									
(4)	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成31年度	45.4	25.1	20.2	9.3				70.5	0.0	0.0
平成30年度	50.6	32.4	14.6	2.4				83.0	0.0	0.0
平成29年度	47.0	28.1	19.9	4.8				75.1	0.0	0.2



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(4)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	している (1+2)	その他	無回答
平成31年度	36.2	30.0	25.8	7.8				66.2	0.0	0.2
平成30年度	41.4	28.0	22.9	7.0				69.4	0.0	0.7
平成29年度	38.5	32.8	23.0	5.7				71.3	0.0	0.0



小学校・中学校ともに、【児童・生徒質問紙番号（4）「家の人と学校での出来事について話をしますか」】については、話をする児童・生徒の割合が低い傾向が見られました。

前述の通り、規則正しい生活習慣、学習習慣、食習慣、運動習慣を確立させることによって、子どもたちの生活基盤を整え、学習へ向かう意欲を高めることができます。それとともに、学校での出来事を話す時間や場を確保し、日頃から家族間の会話を増やすことも重要です。家族との会話が少ないことは課題として挙げられます。

学校では学級経営を中心とした良好な人間関係を育むことに取り組み、家庭では基本的な生活習慣や学習習慣といった安定した家庭生活を送ることが大切となってきます。つまり、学校・家庭における生活基盤を安定させることが学力を育む礎となってきます。強みとして捉えられる点と課題と考えられる点がありましたが、学校とともに、保護者との関わりの中で、子どもたちが育まれていることが、児童・生徒質問用紙から明らかになっていました。今後も、これまで同様の取り組みを続けていき、学力を向上させるため基礎をしっかりと固めていくことが必要と考えられます。

2. 資質・能力を育むための授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の授業改善～

◇資質・能力を育むために

・調査結果 小学校 国語

中学校 国語

・調査結果 小学校 算数

中学校 数学

・調査結果 中学校 英語

◇「考え」を発信する場や機会をもつために

資質・能力を育むために ～「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」～

これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領⁷では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」のある授業を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」が目的ではなく、資質・能力を育むことが授業改善の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育てていく必要性があります。

7【新学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校新学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

このようなことから、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、昨年度までは、A 問題【主として知識】、B 問題【主として活用】を問う設問構成となっていました。これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。知識を問う A 問題と活用を問う B 問題には相関関係があると言われていています。「知識」と「活用」をそれぞれ分けて育成するのではなく、活用の学習を通して知識が定着することも考えられます。つまり、知識と活用を分けるのではなく、相互に関連し合いながら育成していきます。新学習指導要領では、基礎・基本的な知識をいかに活用させて「生きて働く知識」を培うかが求められています。

調査結果 小学校 国語

平成31年度 調査結果 小学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	55	-8.8	61	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	63.7	-8.6	69.1	72.3
	書くこと	3	46.7	-7.8	52.7	54.5
	読むこと	3	76.5	-5.2	80.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	42.8	-10.7	49.2	53.5

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

平成29・30年度調査結果 小学校 国語		【国語A：主として知識】				【国語B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		67.0	-7.8	65	-5.7	50.0	-7.5	47	-7.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	61.6	-7.6	87.9	-2.9	56.7	-8.2	57.7	-6.9
	書くこと	53.2	-7.4	71.9	-1.9	44.4	-9.0	36.9	-8.7
	読むこと	65.6	-4.6	69.7	-4.3	43.3	-5.9	38.7	-12.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.2	-7.8	59.7	-7.3				

調査結果 中学校 国語

平成31年度 調査結果 中学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		10	68	-4.8	73	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	64.9	-5.3	70.6	70.2
	書くこと	2	78.3	-4.3	82.0	82.6
	読むこと	3	67.7	-4.5	72.5	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	62.4	-5.3	67.0	67.7

平成29・30年度調査結果 中学校 国語		【国語A：主として知識】				【国語B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		74.0	-3.4	73	-3.1	68.0	-4.2	59	-2.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	73.0	-2.4	73.7	-1.5	68.3	-4.1	75.7	-0.9
	書くこと	82.7	-3.0	73.1	-0.8	55.2	-5.6	29.0	-2.3
	読むこと	70.7	-3.1	75.6	-1.1	68.6	-3.5	50.9	-2.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	-3.8	71.7	-4.8	33.1	-8.3	47.4	-1.8

調査結果 小学校 算数

平成31年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	60	-6.6	67	66.6
学習指導要領の領域等	数と計算	7	54.9	-8.3	63.3	63.2
	量と測定	3	44.7	-8.2	54.1	52.9
	図形	2	73.9	-2.8	76.6	76.7
	数量関係	7	60.5	-7.8	68.7	68.3

平成29・30年度調査結果 小学校 算数		【算数A：主として知識】				【算数B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		72.0	-6.6	59	-4.5	40.0	-5.9	45	-6.5
学習指導要領の領域等	数と計算	73.6	-7.0	54.3	-8.0	48.2	-4.6	50.9	-7.5
	量と測定	62.0	-6.8	72.5	-0.2	39.9	-7.1	44.0	-8.4
	図形	75.3	-5.8	51.8	-5.1	6.5	-6.7	55.7	-4.2
	数量関係	72.5	-7.1	53.8	-6.3	32.3	-7.7	38.7	-6.4

調査結果 中学校 数学

平成31年度 調査結果 中学校【数学】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	55	-4.8	59	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	55.9	-7.9	64.1	63.8
	図形	4	68.7	-3.7	73.5	72.4
	関数	3	33.6	-7.2	39.4	40.8
	資料の活用	4	54.6	-1.7	54.7	56.3

平成29・30年度調査結果 中学校 数学		【算数A：主として知識】				【算数B：主として活用】			
分類	区分	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度	
		平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
全体		62.0	-2.6	63	-3.1	40.0	-5.9	43	-3.9
学習指導要領の領域等	数と式	64.4	-6.0	65.5	-5.6	48.2	-4.6	48.6	-2.8
	図形	65.8	-0.2	66.9	-2.2	39.9	-7.1	43.4	-3.3
	関数	55.4	-2.0	53.5	-2.0	6.5	-6.7	48.8	-4.0
	資料の活用	55.8	-1.8	62.0	-1.5	32.3	-7.7	31.5	-6.5

調査結果 中学校 英語

平成31年度 調査結果 中学校【英語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		21	53	-3.0	59	56.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	66.1	-1.8	70.1	67.9
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	52.0	-3.6	57.4	55.6
	書くこと	8	43.0	-2.8	49.7	45.8

※英語においては、今年度中学校で初めて行われたため、経年変化を示すデータはありません。

◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

【小学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国との正差	無解答率
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	○	○	66.6	-4.6	0.2
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	○	○	52.2	-11.2	5.4
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		○	21.5	-7.3	4.4

【中学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国との正差	無解答率
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	○	○	86.3	-1.1	0.7
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		○	70.4	-7.4	9.2

問題 小学校1三

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。

この問題の趣旨は「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」です。自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大事となります。

問題 中学校3二

広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。

この問題の趣旨は、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」です。この設問では、目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意

見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くことが大事です。

これまでも「書くこと」は課題として挙げられてきました。H31年度においても、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に課題があると言えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くことになります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、自分の考えを持つ、そして書くという流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していることです。

ただ、文字を写すといったことではなく、そこには「思考（考えを持つ）」を「表現（書く）」することが求められています。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。

◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

【小学校 算数】

設問番号	「数と計算」	出題の趣旨	（参考※） 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	（正答率）	率全国の正差	無解答率
2（4）	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	○	○	43.2	-16.9	1.0
3（1）	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる		○	78.5	-3.3	1.0
3（2）	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる		○	20.5	-10.6	15.1
3（3）	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる		○	69.3	-5.6	2.4
3（4）	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	○	○	39.0	-8.0	3.2

【中学校 数学】

設問番号	「数と式」	出題の趣旨	(参考※) 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	(正答率%)	率全国の正差答	無解答率
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	○	○	53.4	-8.8	0.5
2	連立二元一次方程式を解く $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○	○	63.4	-6.7	6.4
9 (1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる		○	47.8	-9.6	12.8
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる		○	52.0	-7.7	21.0
9 (3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる		○	63.1	-6.5	2.8

問題 小学校2 (4)

洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する。

この問題の趣旨は、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」です。この問題では、四則の混合した整数と小数の計算ができることを目標としています。

今回の問題においては、具体的な場面を想起して四則の混合した式を計算する文脈が設定されています。つまり、ただ単純に計算をして答えを求めることができることを目標としているのではなく、具体的な場面と式を関連付けて考えたり、説明したりできることが大事となってきます。計算をして正確な答えを求めることは大事ですが、その計算の過程において、なぜそのような答えになるのかを、図や式や言葉を用いて、周りの友達に説明ができることは大切なことです。つまり、日々の算数の授業の場面においても、言葉と式と図を関連付けて考えたり、説明をしたりする場を設定したりするなど、「生きて働く知識」となるように授業展開を工夫する必要があります。

問題 小学校3 (2)

減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなのかを書く

また、この問題の趣旨は、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる」です。ここでは、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することを目標としています。

問題 中学校9 (2)

連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する

この問題の趣旨は、「事柄が成り立つ理由を説明することができる」です。ここでは、一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。

数に関する性質を考察する場面では、数学的な結果を事象に即して解釈すること、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること、総合的・発展的に考察することが大切です。

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、)統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数・数学の授業においても「考えを持つことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって算数・数学についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事となってきます。

◇ 英語について

今年度、初めて中学校で英語の調査が実施されました。全体として全国平均正答率と比べて、有意差のない範囲に入っているとともに、それぞれの領域「聞くこと」「読むこと」「書くこと」においても、全国と同じ傾向であるといえます。（今回、話すことは参考値のためデータはありません。）

これまでお伝えしている「書くこと」について英語においても分析していきます。

設問番号	書くこと	出題の趣旨	（参考） 従来の区分		寒川町		
			「知識」	「活用」	正答率（％）	全国正答率との差	無解答率
9（1） ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○		75.9	-4.0	0.9
9（1） ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○		58.2	0.0	1.2
9（2） ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	○		72.3	-1.3	4.5
9（2） ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	○		24.8	-4.1	17.5
9（3） ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	○		46.8	-6.7	9.5

問題 中学校9（3）①

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く

この問題の趣旨は、「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」です。ここにおいては、語と語のつながりなどに注意して文を書くことができるようにすることが大切となってきます。「書くこと」について、考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるよう指導したり、I、You以外の主語を用いて書く機会を設けたりする工夫が考えられます。

国語、算数、英語の分析を通して、特に「自分の考えをまとめて、書く」ことが、寒川の児童・生徒が苦手としているところが課題として浮かび上がってきました。

◇ 各教科における記述式問題について

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			寒川町		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の特質	伝統的な言語文化と国	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の①と②で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		□					○	21.5	-7.3	4.4
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】のイに、疑問に思ったことの②に対する答えになるように考えて書く				□				○	64.9	-11.0	5.6
3三	【インタビューの様子】のイに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	□						○	52.9	-15.3	24.4

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			寒川町		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の特質	伝統的な言語文化と国	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ			□				○	89.6	-1.6	2.1
2三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	□						○	51.9	-8.5	10.9
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		□					○	70.4	-7.4	9.2

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			問題形式			寒川町		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との全国差正答率
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	□					○	37.6	-6.3	10.2
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	□		□			○	46.3	-5.8	1.2
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	□					○	20.5	-10.6	15.1
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位置当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	□		□			○	50.2	-12.4	5.4

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			寒川町		
			数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	との全国差正答率	無解答率
6 (2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			□				○	26.2	-8.5	17.0
7 (3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる		□					○	49.6	-3.7	21.5
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる							○	41.1	0.3	24.3
9 (2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	□						○	52.0	-7.7	21.0

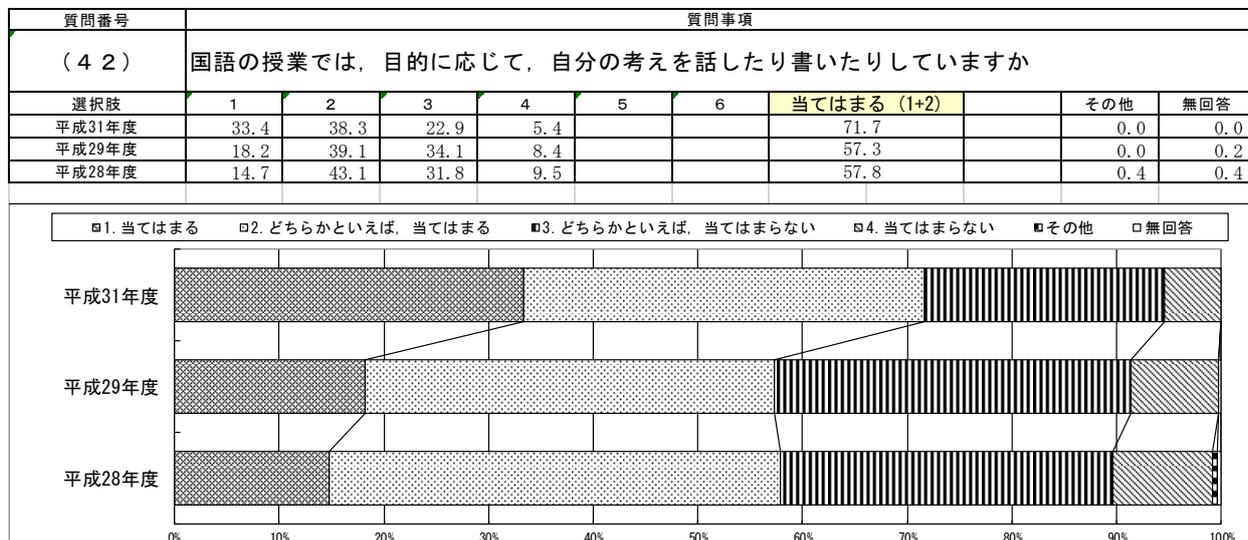
◇ 「考え」を発信する場や機会をもつために

上記の結果は、小学校・中学校における国語と算数の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「考えること」つまり「自分の考えをまとめる」ことが大切です。この結果より、記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということは、考えること（思考力）に課題があると考えられます。

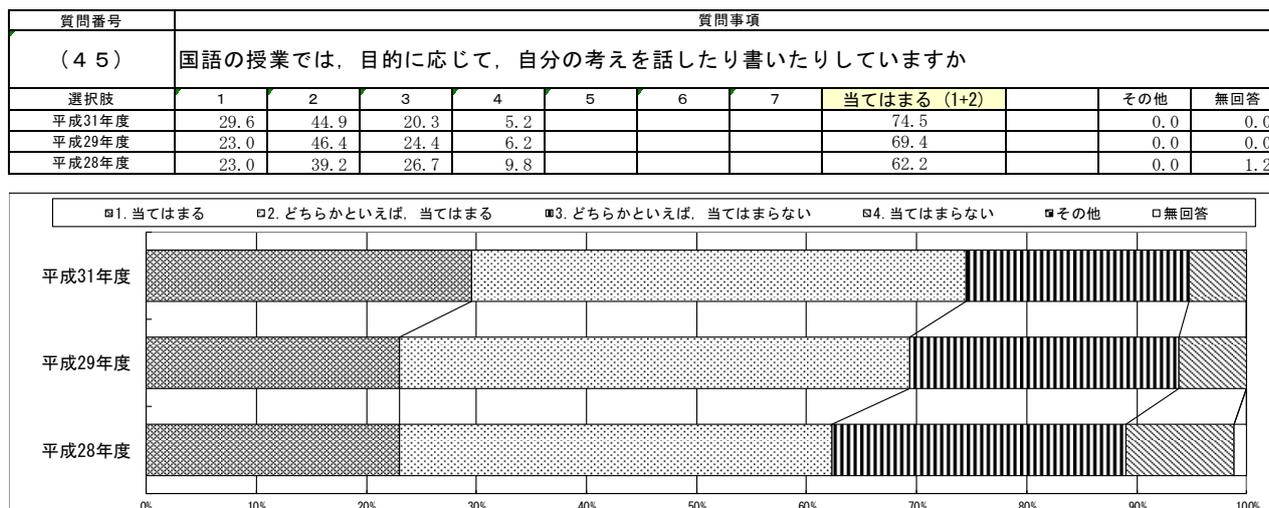
以下の児童・生徒質問紙【小・(42)】【中・(45)】では、平成29年度の調査から、ポイントが大きくあがっています。この結果より、年を追うごとに児童・生徒が、授業の

中で自分の考えを話したり、書いたりしていることが授業の中で位置付けられていることが分かります。前述した通り、書くためには、自分の考えを持たなければなりません。学校においては、児童・生徒が考え、発信できる場や機会が保障されていることが分かります。

国語【小学校児童質問紙】

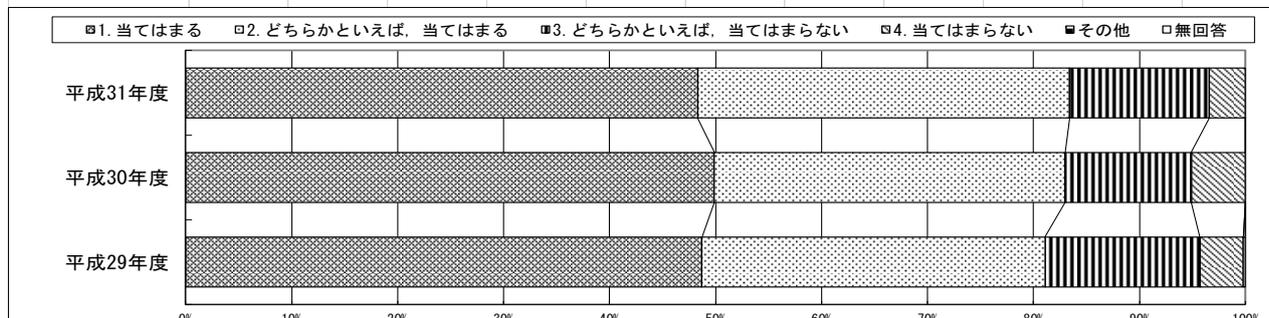


【中学校質問用紙】



算数【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項									
(55)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	48.3	35.1	13.2	3.4			83.4		0.0	0.0
平成30年度	49.9	33.1	11.9	5.1			83.0		0.0	0.0
平成29年度	48.7	32.4	14.6	4.1			81.1		0.0	0.2

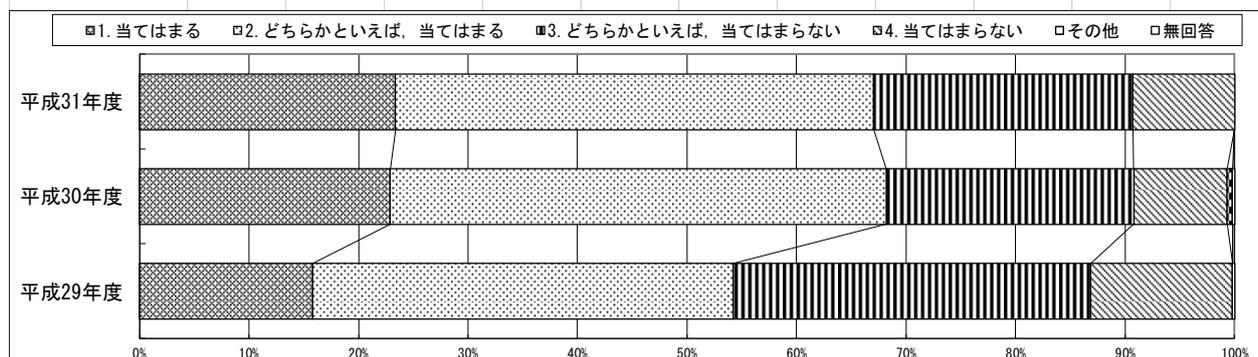


以下の項目では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関する調査結果です。「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現のためには、対話的な学びの過程（他者との交流）が授業を構成する上で、大事となってきます。自分の考えを持ち、友達と交流をする。交流する場がなければ対話は生まれません。

話し合いに向けた取り組みについては、小学校児童質問紙【質問番号（29）】、中学校生徒質問紙【質問番号（32）】、小学校児童質問紙【質問番号（32）】、中学校生徒質問紙【質問番号（35）】、小学校児童質問紙【質問番号（34）】、中学校生徒質問紙【質問番号（39）】、にあります。

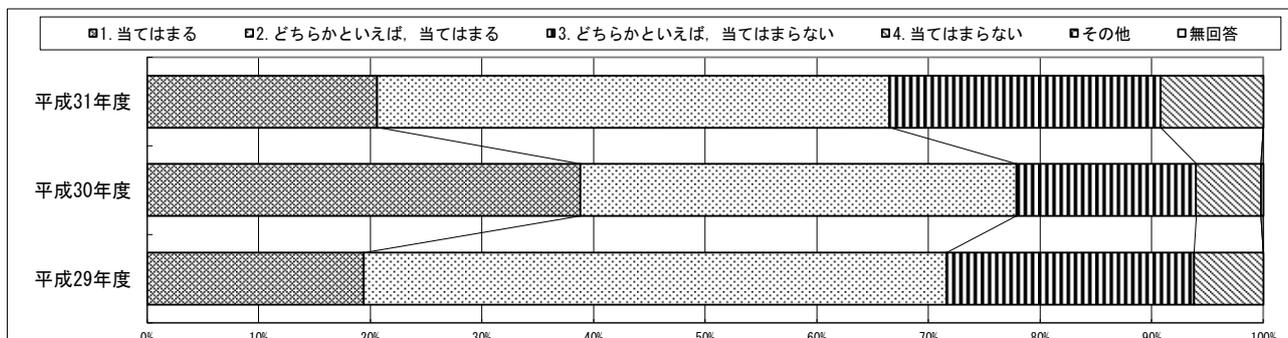
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(29)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	23.4	43.7	23.7	9.3			67.1		0.0	0.0
平成30年度	22.9	45.3	22.6	8.5			68.2		0.5	0.2
平成29年度	15.8	38.4	32.6	12.9			54.2		0.0	0.2



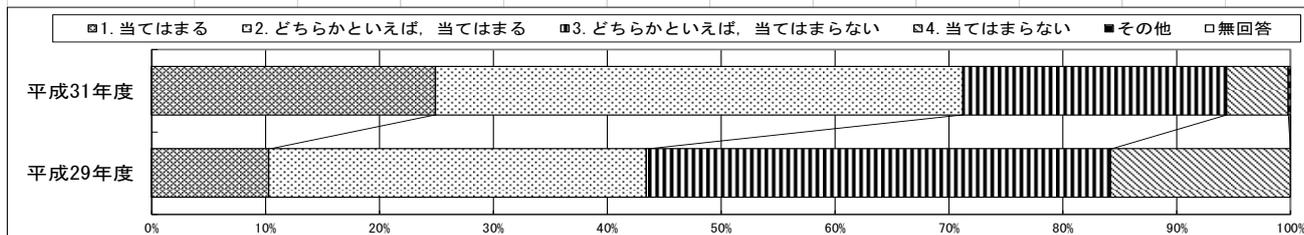
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(32)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	20.6	45.9	24.3	9.2				66.5	0.0	0.0
平成30年度	38.8	39.0	16.1	5.8				77.8	0.0	0.2
平成29年度	19.4	52.2	22.2	6.2				71.6	0.0	0.0



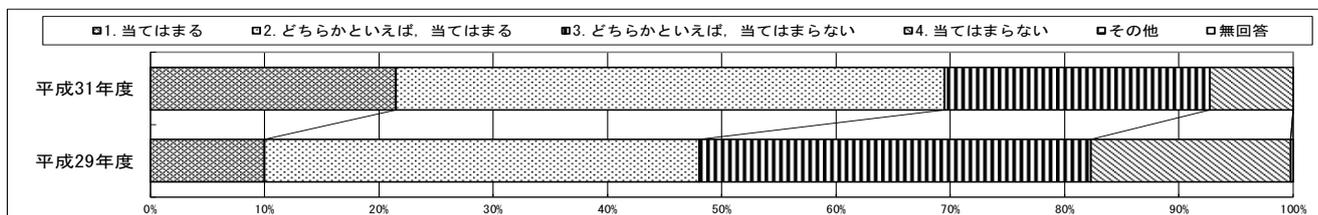
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(32)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)	その他	無回答	
平成31年度	24.9	46.3	23.2	5.4			71.2	0.2	0.0	
平成29年度	10.3	33.1	40.8	15.8			43.4	0.0	0.0	



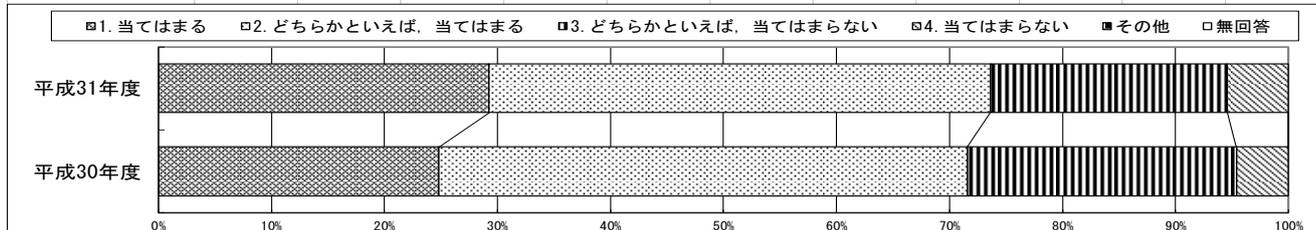
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(35)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	21.5	48.0	23.2	7.3				69.5	0.0	0.0
平成29年度	10.0	38.0	34.2	17.5				48.0	0.0	0.2



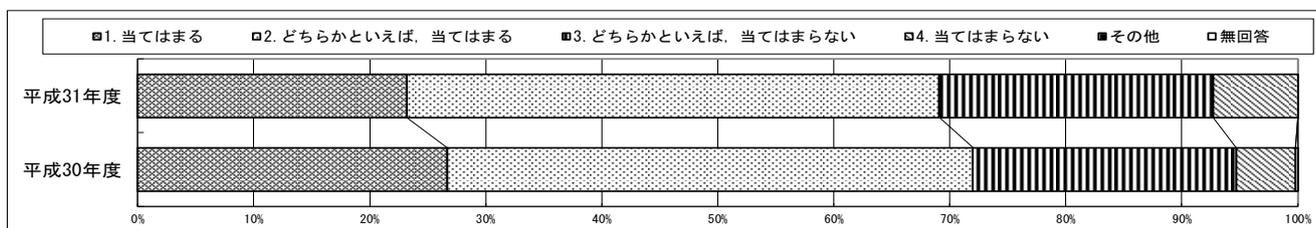
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(35)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)	その他	無回答	
平成31年度	29.3	44.4	21.0	5.4			73.7		0.0	0.0
平成30年度	24.8	46.7	23.8	4.6			71.5		0.0	0.0



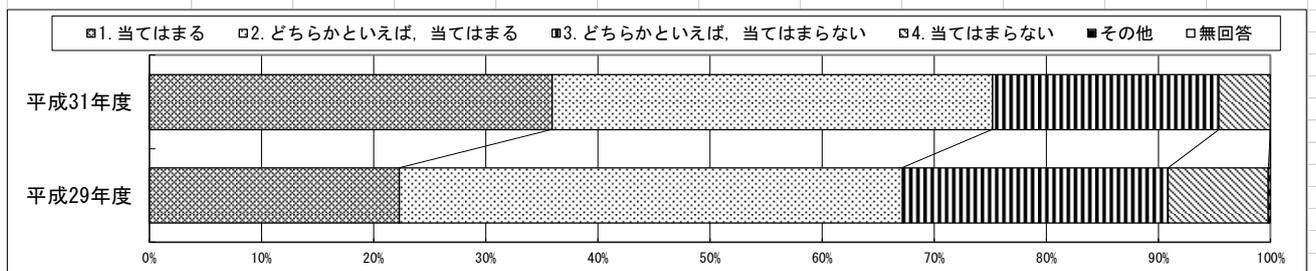
【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(37)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	23.2	45.9	23.6	7.3				69.1	0.0	0.0
平成30年度	26.7	45.3	22.7	5.1				72.0	0.0	0.2



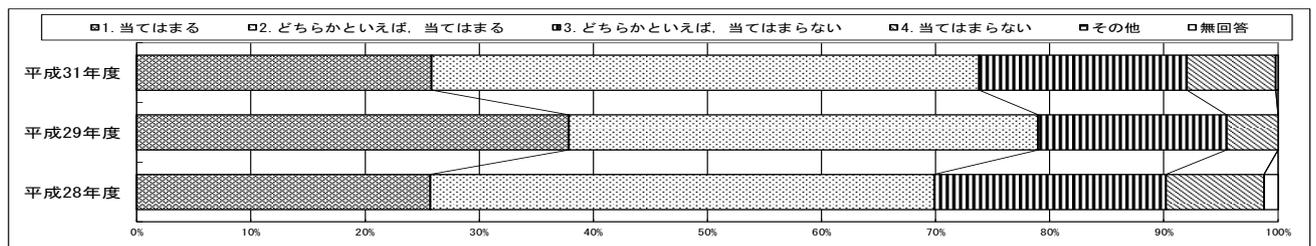
【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項									
(34)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)	その他	無回答	
平成31年度	35.9	39.3	20.2	4.6			75.2		0.0	0.0
平成29年度	22.3	44.8	23.7	8.9			67.1		0.2	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項									
(39)	1, 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)	その他	無回答
平成31年度	25.8	48.0	18.2	7.8				73.8	0.0	0.2
平成29年度	37.8	41.1	16.5	4.5				78.9	0.0	0.0
平成28年度	25.7	44.1	20.3	8.6				69.8	0.0	1.2



小学校児童質問紙【質問番号（32）】、中学校生徒質問紙【質問番号（35）】では、平成29年度に比べて、小学校、中学校ともに大きく割合があがっていることが見てとれます。学級活動における話し合いが活発に行われていることがわかります。

また、小学校児童質問紙【質問番号（34）】、中学校生徒質問紙【質問番号（39）】では「特別の教科 道徳」で示されているように、考え、議論する道徳が実施されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れられている様子が伝わってきます。まさに、新学習指導要領に向けて取り組んでいる、授業改善の視点のひとつの表れである、「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

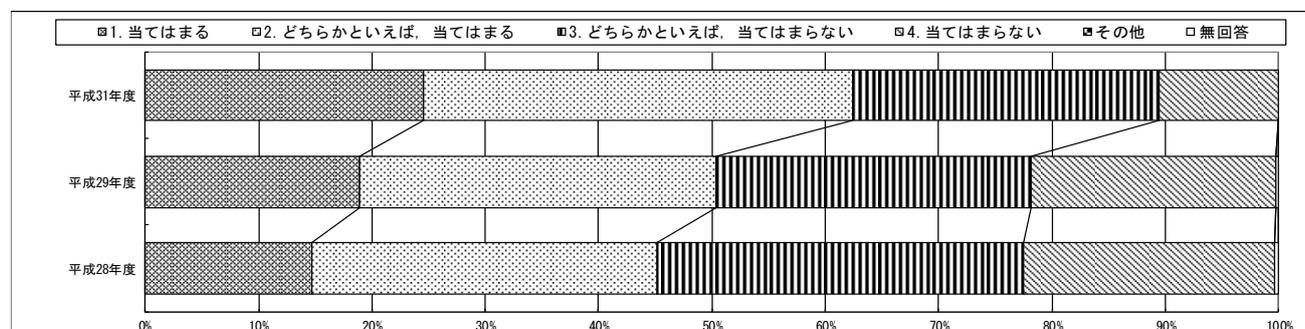
さらに、小学校児童質問紙【質問番号（35）】、中学校生徒質問紙【質問番号（37）】では、児童・生徒自らが、主体的な学びの過程についての取り組みの結果と読み取れます。

児童・生徒も主体的で対話的で深い学びという、新しい学習スタイルに、教師だけでなく児童生徒も、少しずつ馴染んでいる姿を見て取ることができます。

また、以下に、国語に関する児童・生徒質問紙【小・質問番号（37）】【中・質問番号（40）】「国語の勉強が好きですか」、算数に関する児童・生徒質問紙【小・質問番号（46）】【中・質問番号（49）】「算数・数学の勉強が好きですか」についての結果を示しています。

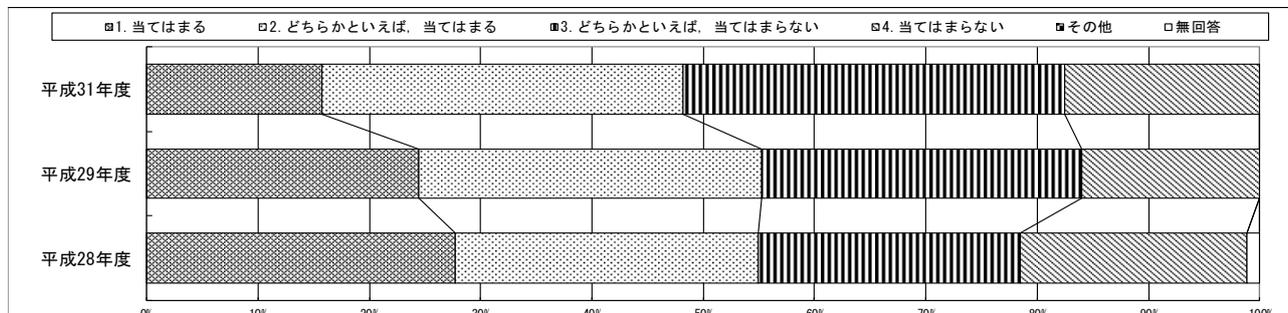
【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項									
(37)	国語の勉強は好きですか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	24.6	37.8	27.1	10.5			62.4		0.0	0.0
平成29年度	18.9	31.4	27.8	21.6			50.3		0.0	0.2
平成28年度	14.7	30.5	32.3	22.1			45.2		0.0	0.4



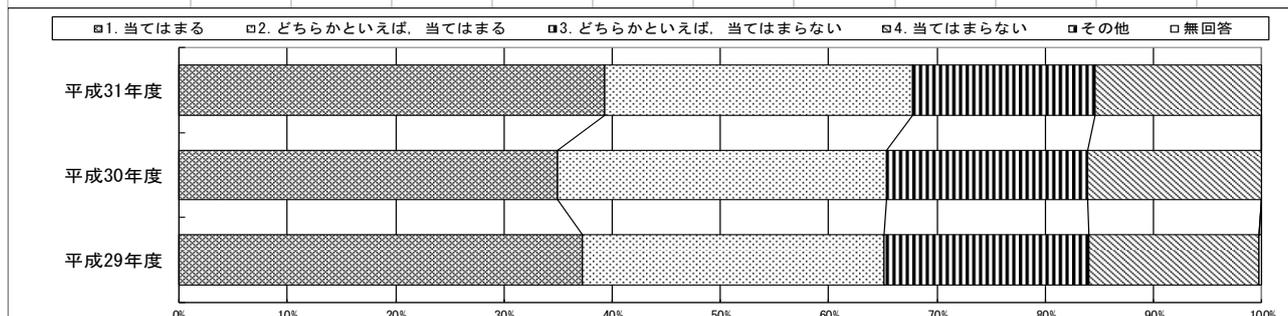
【生徒質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(40)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	15.8	32.4	34.3	17.5				48.2		0.0	0.0
平成29年度	24.4	30.9	28.7	16.0				55.3		0.0	0.0
平成28年度	27.7	27.2	23.5	20.3				54.9		0.0	1.2



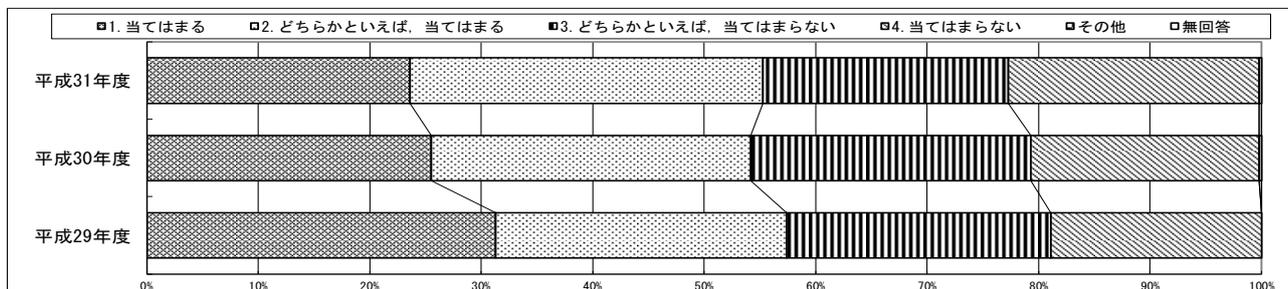
【児童質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(46)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答	
平成31年度	39.3	28.5	16.8	15.4			67.8		0.0	0.0	
平成30年度	35.0	30.4	18.5	16.1			65.4		0.0	0.0	
平成29年度	37.2	27.8	18.9	15.8			65.0		0.0	0.2	



【生徒質問紙調査】

質問番号	質問事項										
(49)	数学の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	23.6	31.7	22.0	22.5				55.3		0.0	0.2
平成30年度	25.5	28.7	25.1	20.5				54.2		0.0	0.2
平成29年度	31.3	26.1	23.7	18.9				57.4		0.0	0.0



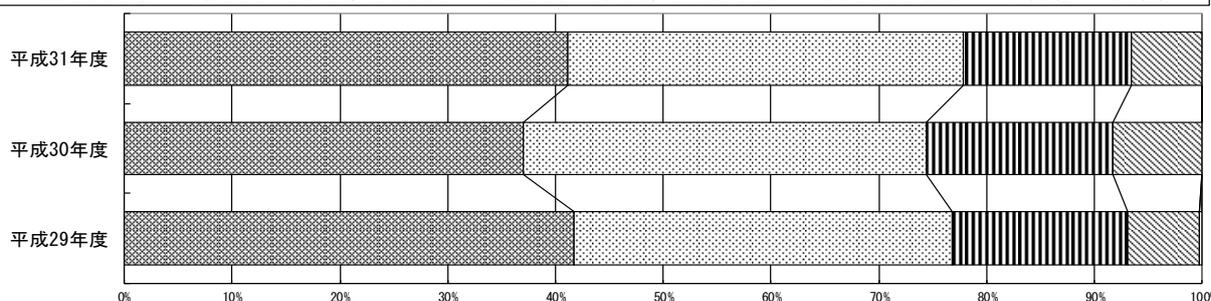
勉強が好きということは、授業が楽しいと置き換えることができます。校内研究等での取り組みを中心とした、児童が主体的に考え学ぶことができるような授業が展開されていることで、児童が学習に対して、興味・関心をもって取り組んでいる様子が伝わってきます。今後も、児童の興味・関心を高める授業づくりに取り組むことによって、児童・生徒

の学びに向かう力の育成ができることが考えられます。

【児童質問紙調査】

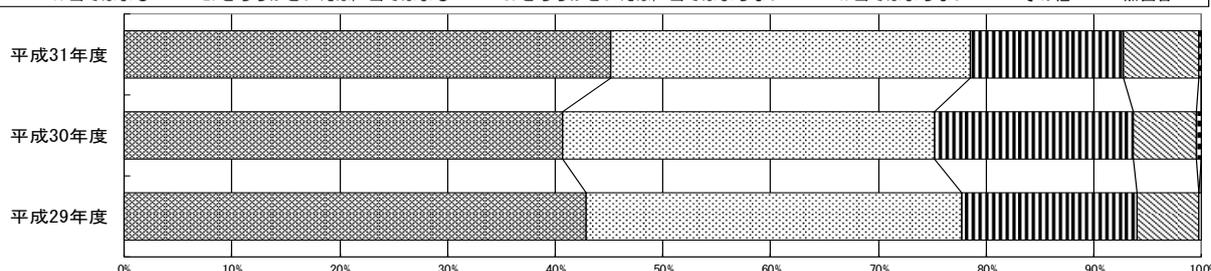
質問番号	質問事項									
(52)	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	41.2	36.6	15.6	6.6			77.8		0.0	0.0
平成30年度	37.0	37.5	17.3	8.3			74.5		0.0	0.0
平成29年度	41.7	35.0	16.3	6.7			76.7		0.0	0.2

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



質問番号	質問事項									
(53)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	当てはまる (1+2)		その他	無回答
平成31年度	45.1	33.4	14.1	7.1			78.5		0.2	0.0
平成30年度	40.6	34.5	18.5	5.8			75.1		0.5	0.0
平成29年度	42.9	34.8	16.3	5.8			77.7		0.0	0.2

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



小学校児童質問紙のみの回答項目となっていますが、児童質問紙【質問番号(51)】「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」【質問番号(52)】「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」【質問番号(53)】「算数の授業で問題を解くときに、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問については、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、どのように取り組んでいるか示している項目と考えられます。

【質問番号(51)】【質問番号(52)】の児童質問紙項目では、児童の主体的な姿について、【質問番号(52)】【質問番号(53)】では、数学的な見方や考え方を働かして深い学びに向かう姿について示されている項目と考えられます。

新学習指導要領で育むべき資質・能力である、「学びに向かう力」では、子どもたちが学習に対して、意欲的に取り組む姿も重要視されます。校内研究を中心として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善が熱心に図られていることによって、児童が意欲的に取り組んでいる姿が算数の学習においても、質問紙から見て取れます。

町内小・中8校では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向けて、校内研究を中心に取り組んでいます。上記の結果より、小・中8校が、校内研究において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいることが表れていると考えられます。新学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く（話す）という活動は、新学習指導要領における3つの柱の一つである「思考力・判断力・表現力」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育んでいくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取り組みを進めていき、今後も自分の「考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことによって、子どもたちが自分の考えを持つことができるようになると思われまます。

また、活用を問う問題を苦手とする傾向が見られました。算数の調査問題では、身近な生活経験から算数の世界へと誘う問題や物語性のある課題が設定されています。授業においても、単に知識を問うのではなく、ストーリーや文脈の中で、子どもたちが知識を活用できる授業づくりの場の設定が大事となってきます。つまり、知識と活用を分けるのではなく、相互に関連し合いながら育成していくことが大事です。

そのためには、「どんな子どもたちに育てたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むことが大切です。そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取り組みを継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。

3. 今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇家庭で育まれていること、

これからも育んでほしいこと

◇学校で育まれていること、

これからも育んでいくこと

◇授業改善を通して育まれていること、

これからも育んでいくこと

今後に向けて ～今までも大切にしていたこと、これからも、大切にすること～

家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇保護者の支えがあって、育まれてきたこと

ここ数年の経年変化のデータにより、家庭における基本的な生活習慣においては、保護者の家庭での協力によって、規則正しい生活を送っている児童が多い傾向が見られます。また、放課後の学習時間の取り組みについても、計画的に学習している割合が増えていることが分かりました。児童・生徒がよりよい成長につなげるためには、家庭と地域の協力が必要です。これまで、家庭で取り組んできた積み重ねが着実に成果として表れています。

しかしながら、中学校生徒質問紙の一部の項目において、例年に比べて低い結果が見られました。様々な項目で年度によって結果が異なることについては、学校・学級と地域が相互に課題を認識、共にその解決に取り組んでいくことが必要です。

◇家庭での会話で育んでいきたいこと

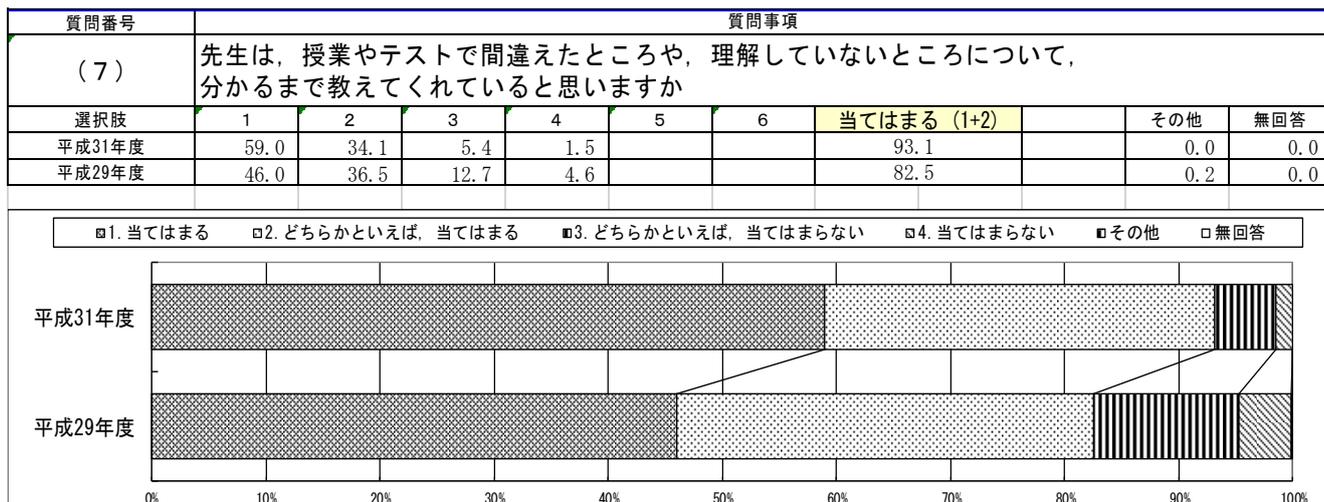
ここまで分析において「考える」ということを課題として挙げました。児童・生徒質問紙調査からは、学校での出来事を家庭で話す児童・生徒が少ない傾向が見られました。家庭において、話す機会を確保することによって、現在の子どもたち様子や状況について理解することができるとともに、「考えて、発信する」という場が必然的に生じます。家庭においても、話す機会と時間を確保して、児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、話す機会を持って下さい。

学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

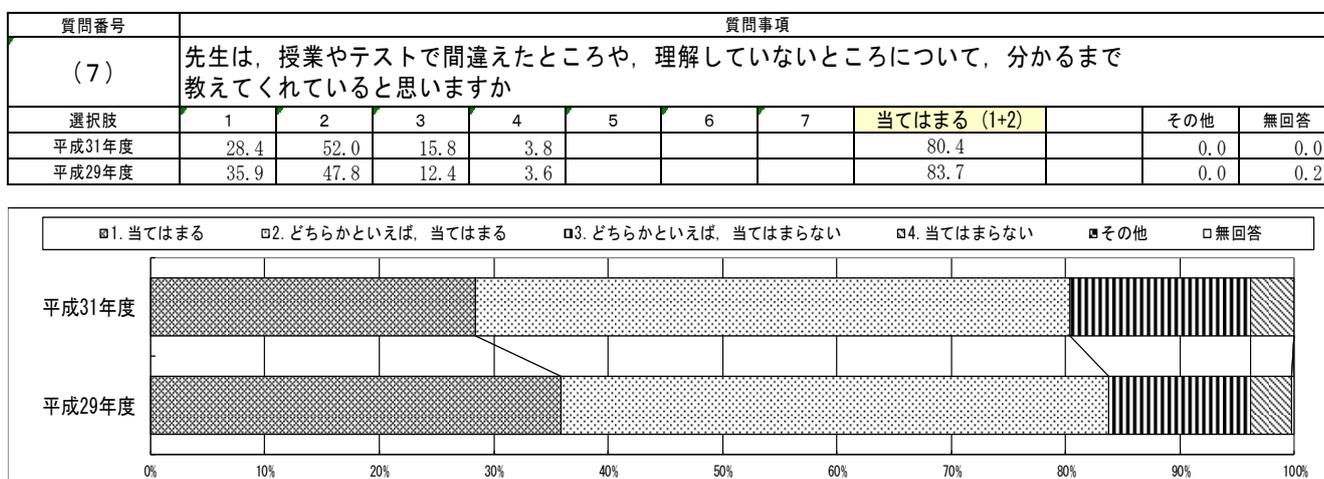
◇先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

児童・生徒質問紙調査の結果からは、小学校において、先生との信頼関係の割合が高い傾向にありました。このような信頼関係が素地となって、学級での文化が育まれていきます。教師は、学んだことに対して全ての児童・生徒が、「できる」・「わかる」ようになってほしいとの思いをもって授業をします。この結果からは、児童・生徒に対して、「できるようになるまで」、「わかるようになるまで」、しっかりと教えるという教師のあきらめない、粘り強い姿勢が読み取れます。間違えたところや、分からないところをそのままにせず、児童の実態に即しながら、できるようになるまで、個別で対応するなど支援・援助をすることで、学習の定着を図ろうと取り組む様子が伝わってきます。

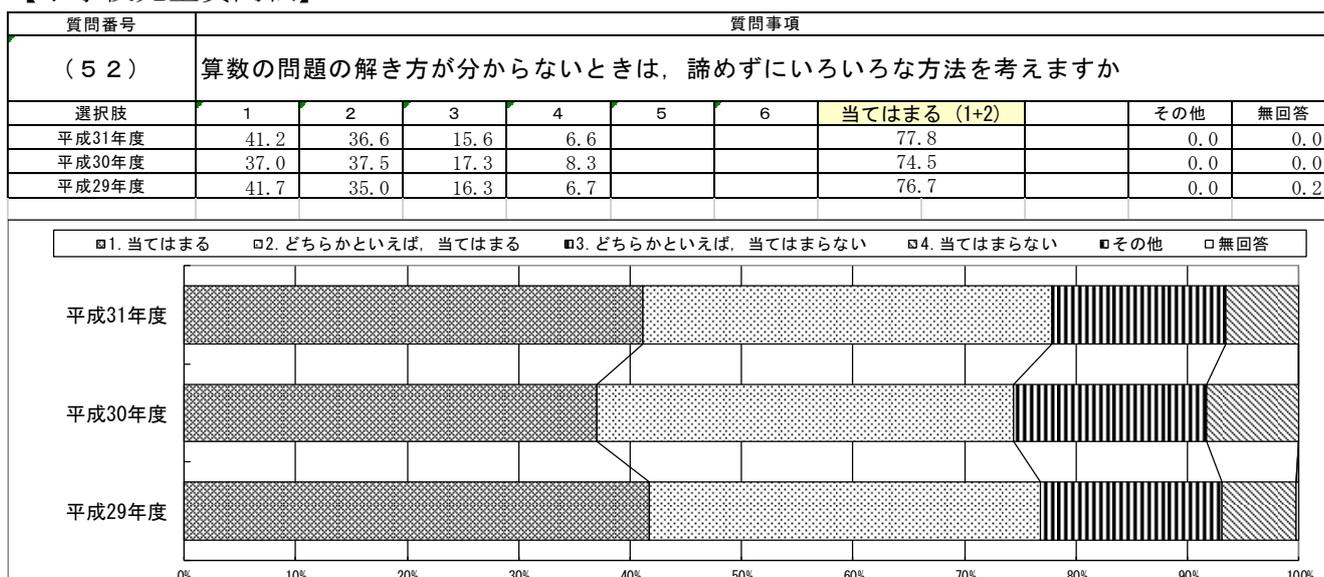
【小学校児童質問紙】



【中学校生徒質問紙】



【小学校児童質問紙】



上記の【児童質問紙調査52】より、児童・生徒が問題を解こうと前向きに取り組む姿が見られています。児童・生徒に声をかけて励ましたり、分かりやすい説明となるように

工夫したりする教師の陰ながらの努力があります。このような、日々の積み重ねによって、あきらめないで取り組むという姿勢が育まれていくと考えられます。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿が、まさに子どもの姿として表れています。

3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があつてこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して、育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取り組みが児童・生徒質問紙調査の結果に表れていました。寒川町では、校内研究において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究に取り組んでいます。

また、学びっこ推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、お互いの学校に持ち帰り、研究を深めています。町内全校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究に取り組むことができていることは、とても価値のあることです。教科調査の分析結果からは、各教科に共通して「思考すること」（思考力）に課題があることが見えてきました。「思考力・判断力・表現力」を育んでいくためにも、「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より意識し、よりよい授業づくりにむけて取り組む必要性があります。

今後も、校内研究や学びっこ子育成推進事業を柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みをさらに推進して、子どもたちの資質・能力を育むと共に、教師の授業力を向上させていきたいと考えています。

◇「教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・」

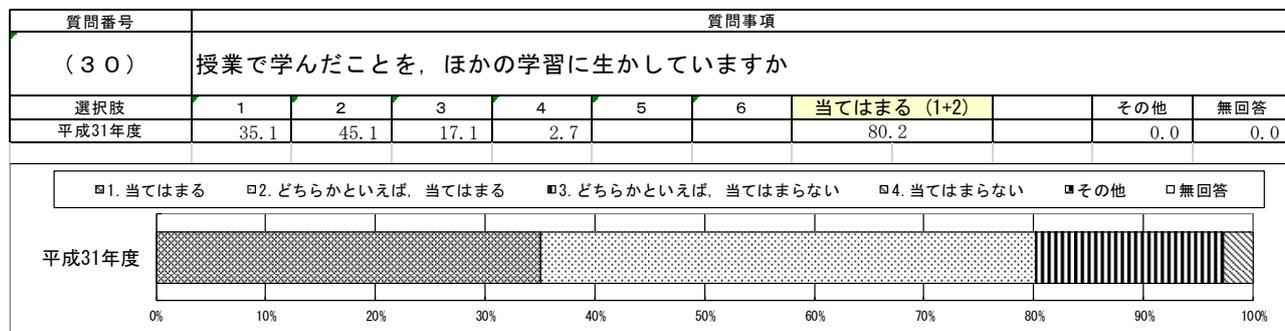
下記の質問項目については、今年度より質問紙に加わった新規項目です。

【児童・生徒質問項目（小・30）（中・33）「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」】

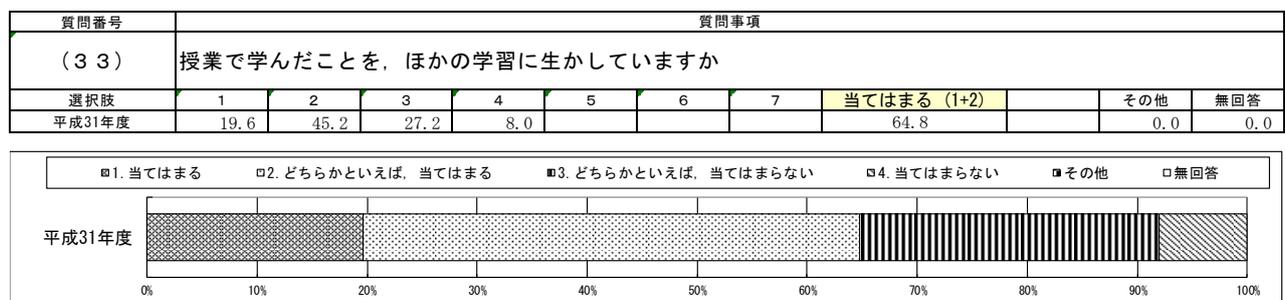
この質問項目からは、授業で学んだことを、実生活の場面で活用したり、他の教科と関連付けたりしながら、学習したことを、生かし活用していく姿がイメージできます。

前述している通り、これから先、このように学習したことを活用することができることが大事でとなってきます。単に、知識を獲得するのではなく、「生きて働く知識」となるよう、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。この質問項目については、今後も注意深く見ていく必要性があります。

【小学校児童質問紙】



【中学校生徒質問紙】



以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、寒川の子どもたちの資質・能力が少しずつですが着実に積み上げられてきていることがわかります。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組んでいきたいと思えます。

今後も、それぞれが適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していくことが必要となります。